



概要 人間の安全保障をはかる

今日の人間の安全保障 第3号

[付録] 人間の安全保障の実践のためのステップ

「今日の人間の安全保障」第3号について

JICA 緒方研究所は、時代の変化を踏まえた人間の安全保障の今日的意義を世界に発信することを目的として、フラグシップ・レポート『今日の人間の安全保障』を定期刊行している。

- ▶ 創刊号では「人間の安全保障を再考する」を、第2号では「複合危機下の政治社会と人間の安全保障」をテーマとして取り上げた。
- ▶ 第3号では「人間の安全保障をはかる」をテーマに、命、生活、尊厳に対する脅威について、そして人の生き方の幅をどのように「はかる」ことができるかについて、一人ひとりの視点から多角的に議論している。
- ▶ 現在から未来にわたり人間開発を確実なものにしていくためには、誰が、どこで、どのように取り残されているのかを可視化し、一人ひとりに安全と安心を保障していくことが欠かせない。
- ▶ 人間の安全保障をよりよく「はかる」試みによって、関係者の間で共通認識を育み、議論を深め、よりよい実践につなげていくことができる。「はかる」ことが、人間の安全保障の実現に向けた大きな推進力となることが期待される。



コアメッセージ

不確実な時代における人間の安全保障

—多様な危機が複雑に絡み合うなか、人々の命、生活、尊厳を守るには?—

人間の安全保障の概念が生まれてから今日に至るまで、世界の人々を取り巻く脅威は様相を変えている。気候変動、武力紛争、パンデミック、自然災害、経済危機などの脅威が複雑に絡み合い、より深刻な危機を引き起こしている。たとえ地球の反対側で生じた問題であっても、私たち一人ひとりの暮らしに大きな影響を与えるようになっている。

これらの世界の問題を正しく捉え、適切に対応していくには、人間の安全保障の視座が有効ではないか。本レポートでは、時代の変化に応じて人間の安全保障をどう理解すべきか、またその適切な実践のためのアプローチとは何かという問いについて探求していきたい。

「今日の人間の安全保障」第3号の目次

巻頭言

「今日の人間の安全保障」第3号の発刊にあたって

国際協力機構（JICA）理事長 田中明彦

レポートの概要

測るべきか、測らざるべきか、別の測り方をすべきか

JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究所長 峯陽一

特集 人間の安全保障をはかる

- 【特別寄稿】 人間の潜在能力、安全と自由、そして良い社会
コロンビア大学 教授／政策対話イニシアティブ(IPD)代表 ジョセフ・E・スティグリッツ
- 【対談】 人間の安全保障をはかる
米国ニュー・スクール・フォー・ソーシャル・リサーチ 教授 サキコ・フクダ・パー
国際協力機構（JICA）理事長 田中明彦
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究所長 峯陽一
- 【招待論文】 ケイパビリティを測る意味と方法
一橋大学 名誉教授／帝京大学 教授 後藤玲子
- 【招待論文】 人間開発——真の豊かさの計測を目指して
ラモン・リュエ大学 IQS スクール・オブ・マネジメント 助教授 平位匡
- 【招待論文】 人間の安全保障に関わるデジタル観測技術——オープンデータとAIの活用
東京大学大学院総合文化研究科 教授 阪本拓人
- 【研究エッセイ】 デジタルアーカイブが拓く人間の安全保障——記憶の継承からリアルタイムな危機対応まで
東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授 渡邊英徳
- 【研究エッセイ】 貧困や格差拡大に対する水災害の影響の計測および社会レジリエンスを高める気候適応策の評価
東京大学未来ビジョン研究センター 教授 川崎昭如
- 【研究エッセイ】 情報のオーナーシップ
東京大学東洋文化研究所 教授 佐藤仁
- 【視点】 SDG 指標の作成プロセス・課題と将来のグローバル指標体系への示唆
JICA 緒方貞子平和開発研究所 上席研究員 佐藤一朗
- 【研究エッセイ】 人間の安全保障とジェンダー——ジェンダーレンズを通してみるデータとAI
JICA 緒方貞子平和開発研究所 副所長 亀井温子
- 【研究エッセイ】 平和学、平和を測る取り組みと人間の安全保障
JICA 緒方貞子平和開発研究所 専任研究員 武藤亜子
- 【研究エッセイ】 「法の支配」指標と人間の安全保障の接続——制度としての法、人びとの視点からの法
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究員 荒井真希子
- 【視点】 ダウンサイドリスクを測る——健康リスクの測定・評価からの学び
JICA 緒方貞子平和開発研究所 主席研究員 瀧澤郁雄
- 【研究エッセイ】 事業評価におけるウェルビーイングの視点と人間の安全保障との接合
国際協力機構（JICA）評価部 部長 阿部俊哉
- 【研究エッセイ】 人間の安全保障指標の構築——目的と手法、今後の展望
JICA 緒方貞子平和開発研究所「人間の安全保障指標」タスクチーム 文責：石塚史曉

人間の安全保障をめぐる諸課題

- 【研究エッセイ】 開発機関における「人間の安全保障」の実践——複合的危機の時代に求められるレジリエンス
国際協力機構（JICA）企画部 審議役／次長 室谷龍太郎
- 【研究エッセイ】 分断の時代における人の移動——アスピレーション・ケイパビリティ枠組みと人間の安全保障の視点の統合的枠組み
JICA 緒方貞子平和開発研究所 主席研究員 折田朋美
JICA 緒方貞子平和開発研究所 主任研究員 齋藤聖子
- 【視点】 学生が人間の安全保障の理解を深めるために——『今日の人間の安全保障』レポートを活用したワークショップ型授業の実践例
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究員 貝塚ジェームズ
- 【視点】 文献案内——開発、リスク、人間の安全保障
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究所長 峯陽一

1 「はかる」とは何か

- ▶ 「はかる」とは、意図された状態を参照しながら現状を押し量ることである。計測の対象には、客観的な事実だけでなく、快・不快、喜び・悲しみ、希望・不安、達成感・挫折感といった人間の主観も含まれる。人間の認知能力の基礎には計測の営みがある。人類は、測るという目的をうまく遂行するために、計測の道具を工夫してきた。

2 測ることの是非

- ▶ 近年、エビデンスに基づく政策研究が主流化し、定量的評価の重要性が高まっている。しかしその一方で、「測りすぎ」がもたらす弊害もある。手段であるはずの計測が目的化すると、本来の目的がおろそかになるかもしれない。低い評価を恐れて、リスクを取る意欲や創造性が損なわれるかもしれない。また、キャパシティの向上、信頼の醸成、長期的な成果などは、数字では十分に測れないかもしれない。

3 何を測るのか

- ▶ まず、「何を測るか」を明らかにすることが大切である。このレポートでは、人間の安全保障がどの程度達成されているのか一人間の安全保障の理念に照らして、私たちが取り組むべき問題はどこにあり、それはどこまで深刻か—を測ることを試みる。
- ▶ 人間の安全保障とは、「恐怖からの自由」と「潜在力を発揮する自由」が確保された状態として理解することもできる。これまでは前者が「平和」に、後者が「開発」に対応すると機械的に理解されることが多かった。しかし人びとは、所得、仕事、健康な暮らしを失う恐怖にも直面しており、そのような日常の恐怖から自由になることもまた、人間の安全保障の核心に位置づけられる。
- ▶ 誰が、どこで、どのように取り残されているのか、どのような方法で潜在力を活かしていくことができるのか、問題を可視化し、克服の方策を人びとと一緒に考えていくことで、私たちは人間開発を確実（secure）にすることができる。

4 どう測るか

- ▶ 「はかる」試みは国際社会でも進化してきた。Beyond GDPをめぐる議論が進展し、経済協力開発機構（OECD）や国連の場で洗練されてきてい

る。単一の数字による指数、複合的なダッシュボード指標など、多様なアプローチの長所と短所が活発に議論されてきた。ケイパビリティの計測は、一人ひとりの人間の可能性の幅を測ろうとする試みである。また、信頼と自己評価といった人びとの主観を明示的に組み込んだ新しい人間開発の評価手法も提案されている。

- ▶ 近年、AI やデータサイエンスの急速な発展により、人間の生活の姿をこれまでにない精度と粒度で可視化できるようになってきた。統計がない場合でも、不足する数値を AI が補完することで、現実に近い推計が可能になりつつある。ただし、技術に依存しすぎるのではなく、それを慎重に活用する姿勢が重要である。
- ▶ また、地図情報やデジタルアーカイブなどの可視化の技法は、個人や地域の記憶・経験を立体的に描き出し、人間の安全保障への理解を深めることを可能にする。災害が地域の不平等や脆弱性にどのような影響を及ぼすかを把握する研究も進んでおり、誰がどこで何に脅かされているかを具体的に示すことが可能になりつつある。
- ▶ さらに、住民が自らの情報を扱い、地域の課題を「ともにはかる」参加型の手法を発展させることで、計測を民主的で実践的な営みに変えていくことができるかもしれない。生活の中で培われた独自の知識や経験を生かしながら、気候変動など差し迫った課題への対応力を高める効果も期待されている。
- ▶ このように、計測のフロンティアは技術の革新と人びとの創意によって拡大しつつある。人間の安全保障をより正確かつ立体的に捉えるための多様な手法が整ってきている。

5 測る、その先へ

- ▶ 人類は長い歴史の中で多様な尺度を生み出し、世界を「はかる」ことを試みてきた。しかし、尺度は文化や文脈に依存するため、完全に客観的なものにはなりえない。それでも私たちが測り続けるのは、世界を知り、理解し、より良い未来を考えるうえで、「はかる」ことが必要であり、役に立つからである。
- ▶ 「はかる」営みをより良い形で社会に活かすため、JICA はポスト SDGs を見据え、国際的に比較可能なコア指標や、人間の安全保障を多角的に示すダッシュボードの構築を進めている。これらは、誰一人取り残されないグローバル社会のウェルビーイングの実現に向けて、新しい共通の尺度を創ろうとする試みである。
- ▶ 今後は、「はかる」研究の深化に加え、その成果を社会に「つなげる」研究へと発展させていきたい。

型をつくり、はかること —
これほど想像力と直感と
創意工夫を要求する
人間の活動を、私は知らない。

Lockhart, Paul. 2012. *Measurement*.
Harvard University Press

特集 人間の安全保障をはかる

人間の潜在能力、安全と自由、 そして良い社会

ジョセフ・E・スティグリッツ

コロンビア大学 教授／政策対話イニシアティブ (IPD) 代表

恐怖から自由になり、誰もが潜在力を発揮できることは、良い社会の条件である。そのために必要な、公的支援や再分配、社会的保護、真に民主的なシステムの重要性を論じ、政治的・経済的な不平等を克服する道筋を提示する。

ケイパビリティを測る意味と方法

後藤玲子

一橋大学 名誉教授／帝京大学 教授

要介護者・障害者を対象とした外出ケイパビリティパネル調査を手がかりに、ケイパビリティ・アプローチで測ることの意味を論じる。潜在的なニーズや自由の制約を捉え、個人のケイパビリティを推定する方法を紹介する。

人間開発

真の豊かさの計測を目指して

平位匡

ラモン・リュイ大学 IQS スクール・オブ・マネジメント 助教授

「豊かさ」をどのように測るかを人間開発アプローチから問い直す。従来、捉えにくいとされてきた信頼と自己評価に着目し、制度的信頼を組み込む社会依存型指数、価値に基づく包括的指数、達成度の乖離を測るギャップ指数の三つの人間開発指数を提案する。

人間の安全保障に関わるデジタル観測技術

オープンデータとAIの活用

阪本拓人

東京大学大学院総合文化研究科 教授

人間の安全保障を定量的に計測する際の方法論的・技術的制約に正面から向き合い、デジタル観測技術の活用による突破口を探る。オープンデータやGIS、生成AIなどを用いて、より細やかに継続的な把握の可能性を示し、理論と実践をつなぐ視点を提示する。

デジタルアーカイブが拓く人間の安全保障

記憶の継承からリアルタイムな危機対応まで

渡邊英徳

東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授

戦争や災害の記憶を多元的に保存し、危機をリアルタイムで可視化するデジタルアーカイブが人間の安全保障に貢献できる具体例を紹介する。「記憶のコミュニティ」がもつ力に着目し、社会のレジリエンスを高め、未来の安全を築く基盤となりうることを描き出す。

貧困や格差拡大に対する水災害の影響の計測および社会レジリエンスを高める気候適応策の評価

川崎昭如

東京大学未来ビジョン研究センター 教授

東南アジアでの現地調査をもとに、洪水などの水災害が物的被害にとどまらず、回復の遅れを通じて不平等を拡大させることを分析。治水や教育への投資を含む気候適応策が、社会のレジリエンス強化や格差是正に資することを示す。

情報のオーナーシップ

佐藤仁

東京大学東洋文化研究所 教授

開発協力において収集される「情報」は誰のものなのか。農村開発の現場事例を手がかりに、情報の非対称性や所有のねじれを問い直し、人間の安全保障に資する情報のオーナーシップのあり方を考察する。

人間の安全保障とジェンダー

ジェンダーレンズを通してみるデータとAI

亀井温子

JICA 緒方貞子平和開発研究所 副所長

人間の安全保障をジェンダーの視点から捉え直し、データやAIに潜む見えにくい偏りに光を当てる。平均値では捉えきれない女性の困難やニーズを具体的な事例で示すとともに、AIが不平等を助長するリスクへの注意を促し、誰一人取り残されない社会の在り方について議論する。

平和学、平和を測る取り組みと人間の安全保障

武藤亜子

JICA 緒方貞子平和開発研究所 専任研究員

「平和を測る」とは何かを、トップダウンとボトムアップの多様な取り組みを通じて考察する。消極的平和と積極的平和の計測の歩みをたどり、その成果と限界を示すとともに、平和と人間の安全保障を結びつけて理解するための手がかりを提供する。

「法の支配」指標と人間の安全保障の接続 制度としての法、人びとの視点からの法

荒井真希子

JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究員

「法の支配」の可視化を制度の整備状況に限らず、法を使う側である人びとの視点から捉え直す。さまざまな指標と法意識研究を紹介しつつ、法制度の整備と人びとの司法への信頼やアクセスといった生活実感を連動させる重要性を示す。

事業評価におけるウェルビーイングの視点 と人間の安全保障との接合

阿部俊哉

国際協力機構（JICA）評価部 部長

JICAが近年取り入れている「人々のウェルビーイング」や「誰一人取り残さない」という視点に立つ事業評価を踏まえ、従来の定量的評価に加えて主観的・定性的な効果にも着目する。事業がもたらした人々の暮らしや満足度の向上を示すとともに、人間の安全保障との関係を考察する。

人間の安全保障指標の構築

目的と手法、今後の展望

JICA 緒方貞子平和開発研究所「人間の安全保障指標」タスクチーム
文責：石塚史暁

人間の安全保障ダッシュボードの構築に向けた取り組みを紹介する。生存、暮らし、尊厳、環境の視点から、多様な指標と既存データを組み合わせ、単一の数値に頼らずに人びとの安全とウェルビーイングを把握しようとする試みを描き出す。

人間の安全保障をめぐる諸課題

開発機関における「人間の安全保障」の実践 複合的危機の時代に求められるレジリエンス

室谷龍太郎

国際協力機構（JICA）企画部 審議役／次長

JICAが人間の安全保障を開発協力の現場でどのように実践してきたのかを、20年以上にわたる歩みを通じて振り返る。人間の安全保障がもたらした付加価値を明らかにするとともに、紛争や災害、気候変動が重なり合う複合的危機の時代において、この理念がなぜ一層必要とされているのかを示す。

分断の時代における人の移動——アスピレーション・ケイパビリティ枠組みと人間の安全保障の視点の統合的枠組み

折田朋美 JICA 緒方貞子平和開発研究所 主席研究員

齋藤聖子 JICA 緒方貞子平和開発研究所 主任研究員

複雑化する「人の移動」をどのように捉えるべきかを、人間の安全保障の視点から考察する。アスピレーションとケイパビリティに着目した新たな枠組みを紹介し、移動する人々を主体的な存在として捉え直し、今日の移動の実態に即した支援の方向性を示す。

付録 人間の安全保障の実践のためのステップ

「人間の安全保障」は、人びとが恐怖と欠乏により生命と暮らしを脅かされることなく、尊厳をもって生きられる社会を実現しようとする考え方である。

人間の安全保障レポート第2号（概要版）付録では、人間の安全保障の実践には、3つの戦略（保護、エンパワメント、連帯）と4つの原則（人びと中心、包括性、文脈重視、予防指向）があることを示した。本号では、実践のための問いとアクションを提示する。

まず、ステップ1では基本的な姿勢を明らかにし、ステップ2では課題の分析方法を整理し、ステップ3では1と2を踏まえた実践方法を示している。

Step 1

人びとを中心に考える

人間を物質的な富を得る手段として扱ってはならない。開発の目的は、人間それ自身である

- ① 人びとは様々な潜在力を有するとともに、個々の属性に応じて異なる脆弱性を有している
- ② 誰も取り残さず、すべての人に生命、暮らし、尊厳が保障される社会を実現することが求められる
- ③ 利用可能な富を増やすだけでなく、人びとが幸せを感じ、自分を肯定できるような社会を築くことが大切である

Step 2

脅威を把握する

開発の経路が常に右肩上がりだとは限らない。脅威によって人びとの生命、暮らし、尊厳が脅かされる局面に対処すべきである

- ① 今日の世界では、様々な脅威が同時に発生したり、強め合ったり、一つの脅威が別の脅威を生み出したりする
- ② 脅威による影響の程度と種類は、人びとの環境、脆弱性によって大きく変わってくる
- ③ 個人やコミュニティ、社会全体といったさまざまなレベルにおいて、脅威を予防し、それに対処し、そこから回復する力であるレジリエンスを涵養していくことが不可欠である

Step 3

保護とエンパワメントで対応する

脅威に対するレジリエンスを高めるためには、人びとの保護とエンパワメントの両方が欠かせない

- ① 人びとが脅威にさらされている局面では、迅速かつ効果的な保護が求められる
- ② 脅威に対して、個人やコミュニティが主体的に対応する力を引き出すエンパワメントも重要である
- ③ 複合化・複雑化する地球規模の脅威に対処するためには、コミュニティや国の枠内での保護やエンパワメントだけでなく、社会におけるさまざまなアクターの間で、さらには国を超えて連帯することが求められる

▶「人間の安全保障の実践のためのステップ」
参考文献一覧は [こちら](#) →



▶人間の安全保障レポート第2号（概要版）
は [こちら](#) →



Step 1

何を
守るのか？

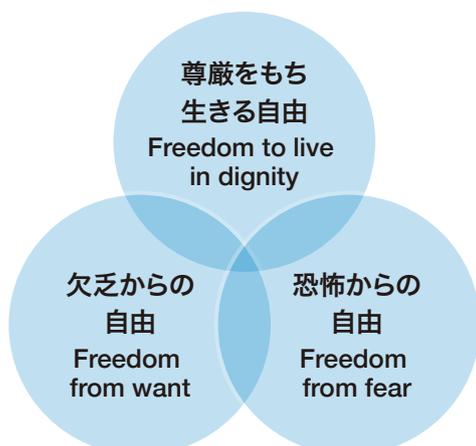
人びとを中心に考える

向き合うべき問い

- ▶ 人びとはその属性に応じ、生命、暮らし、尊厳について、いかなる課題を抱えているか。それらを守るために何が必要か
- ▶ それらの課題の背景には、どのような構造的な脆弱性が存在するのか
- ▶ 開発は人びとにどのような影響をもたらすのか、人びとのニーズに応えているのか
- ▶ 開発によって、誰が、どのような良い影響を受けるのか
- ▶ 開発の良い影響から取り残される人はいないか
- ▶ 開発によって負の影響を受ける人はいないか
- ▶ 開発は人びとの悲しみと不安を減らし、幸福と安心を増やすことができるか

取るべきアクション

- ▶ 人びとがその属性に応じてさらされている脅威やリスク、開発により受ける影響を把握するため、平均値ではなく脱集計化した情報入手する
- ▶ 人びとを取り巻く社会制度、経済構造、権力関係、歴史文化を踏まえて、脅威やリスクに対して脆弱な人びと、開発から取り残される人びとの存在を把握する
- ▶ 人びとの主観的な意識と、意識の変化に関する情報も可能な限り集める
- ▶ 人びとの生命、暮らし、尊厳を守ることを最終目標として認識し、政府機関の能力向上や制度整備などの達成は中間目標として捉える



人びとを中心に据えた開発 People-Centered Development

人間の安全保障は、基本的人権と、人びとを中心とする人間開発の概念を基礎として生まれた。物質的な富を増やしていく経済成長は必要であるが究極の目的ではなく、人びとの可能性の幅を広げ、生命、暮らし、尊厳を一人ひとりに保障していくための手段にすぎないという考えが背景にある。これはJICAのミッションである「質の高い成長」の考え方にもつながる。

包摂性 Inclusiveness

社会の発展の状態を国ごとの平均値ではなく、地域や所得階層、個人の属性の違いに着目し、脱集計化して見ることで、社会のすべての人びとに、豊かで尊厳ある暮らしを保障する開発の実践を進めることができる。脆弱な人びとの存在を可視化し、発展のプロセスに包摂する考え方は、「誰も取り残さない」というSDGsの理念にも表れている。

主観的ウェルビーイング Subjective Well-being

物質的な富を増やせば、自動的に人びとの幸福が実現するわけではない。ウェルビーイングや「Beyond GDP」の議論が示すように、人びとが自分たちの幸福を主観的にどう捉えているかに着目することが必要である。また、人間の安全保障では、不安、不安全感も重視される。人間の尊厳が守られている社会は、自尊心や共感、互いの信頼に支えられた社会でもある。

Step 2



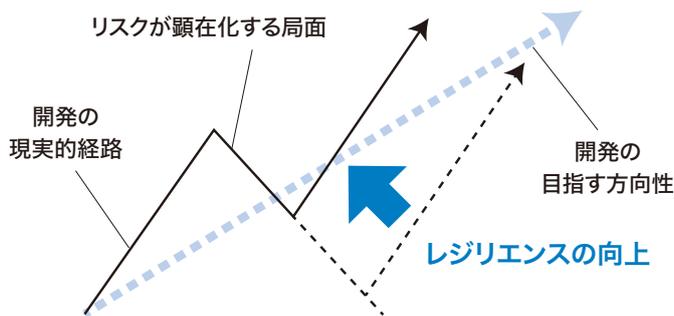
脅威を把握する

向き合うべき問い

- ▶ 人びとの生命、暮らし、尊厳をおびやかしている脅威は何であり、その根本原因、問題構造はいかなるものか
- ▶ その脅威は、他の脅威とどのように複合し、連鎖しているのか
- ▶ 今後発生する可能性が高く、人びとへの影響が大きい潜在的な脅威（リスク）はあるか。それを予防する手立てはあるか
- ▶ 人びとの属性に起因する脆弱性や地域・国固有の文脈によって、脅威はどのように増幅されるのか
- ▶ 個人やコミュニティ、社会全体は、その脅威を予防し、それに対処し、そこから回復する力であるレジリエンスを備えているか

取るべきアクション

- ▶ 国やセクターの枠を超えて、脅威の複合性や連鎖性を包括的に捉え、根本原因、問題構造を分析する
- ▶ 既に顕在化している脅威だけでなく、今後、人びとや社会に影響し得る潜在的な脅威（リスク）にも注意を向ける
- ▶ 脱集計化した情報も踏まえ、地域・国固有の文脈や、それぞれの人びとに特有の脆弱性を特定する
- ▶ 脅威を予防し、それに対処し、そこから回復するために、個人やコミュニティ自身に備わっている力と、制度や政策を通じて社会全体として対応する力の両方に着目する



開発における脅威とレジリエンス

脅威 Threats

人びとの生命、暮らし、尊厳を深刻かつ広範に脅かすあらゆる要因のことを指す。戦争が深刻な脅威となる地域もあれば、飢餓や病気がより切迫した脅威となる地域もある。気候変動や経済危機のように大規模なものだけでなく、病気や貧困のように人びとが日常的に直面するものもある。

リスク Risks

今後発生し得る潜在的な脅威のことを指す。リスクは脅威が発生する可能性と、その予想される影響の大きさにより評価される。リスクには短期間または単一の出来事によって顕在化するものと、慢性的な要因によって引き起こされるものがある。その影響の度合は、人びとの属性に応じた脆弱性や、人びとの場所や環境による曝露によって変わる。

レジリエンス Resilience

個人やコミュニティ、社会全体が、脅威による負の影響を予防し、それに対処し、そこから回復する能力のことを指す。「弾力性」といった特性を指し、剛性を含意する「強靭性」とは異なる。人びとを守る体制を強化（保護）し、人びとの主体的な対応力とそれを高める仕組みづくり（エンパワメント）により、様々な脅威に柔軟に対応できるレジリエンスが強化される。

Step 3



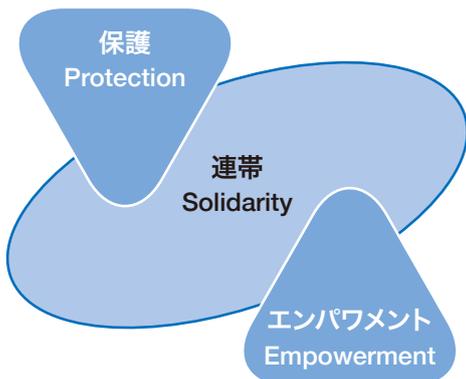
保護とエンパワメントで対応する

向き合うべき問い

- ▶ 個人やコミュニティ、社会のレジリエンスを高めるため、政府等はどのような制度整備、政策・ルール策定、サービス提供などを行う必要があるか
- ▶ 人びとは個人またはコミュニティとして、どのような潜在力を有しているか。その潜在力を引き出し、脅威に対する個人やコミュニティのレジリエンスを高めるためには、どのような働きかけや環境づくりが可能か
- ▶ 脅威の根本原因に対処するためには、どのような取り組みが必要か。セクターを超えた課題に対してどのように取り組むことが可能か
- ▶ 課題に対処するために、政府だけでなく、国際社会、民間セクター、地域社会等の果たしうる役割は何か

取るべきアクション

- ▶ 人びとを脅威から守るため、緊急的な支援を行う。また、脅威の根本原因に対処し、リスクを最小化するために、制度整備やサービス提供、その実施に必要なキャパシティ・ディベロップメントを行う（保護）
- ▶ 人びと自身の選択する力の向上や行動変容を促すため、人びとに情報、知識、機会を直接提供する（エンパワメント）
- ▶ 人びと自身の選択する力の向上や行動変容を継続的に促すための仕組みづくり、例えば政策やルールの策定、その実施に必要なキャパシティ・ディベロップメントを行う（エンパワメントのための環境づくり）
- ▶ 政府だけでなく、国際社会、民間セクター、地域社会等による相互の協働（連帯）の可能性を追求する



どう
守るのか？

保護 Protection

政府や国際社会、民間セクター、地域社会等が、自力では解決できない脅威にさらされる人々を守ることを指す。戦争・紛争だけでなく、災害や感染症、経済的な不安や不安全から人びとを守る社会保障も含まれる。複雑化・複合化する脅威に対処するには、セクターを横断した取り組みが求められる。

エンパワメント Empowerment

人びとが自分自身および他者のために行動する能力を向上させることを指す。それは、人びとの潜在力が発揮され、可能性が広がることであり、自ら脅威に対処し、リスクを軽減することが可能になるプロセスである。これは、人びとが受動的な受益者の立場を超えて、集合的な主体性を発揮して資源を成果へと変換するプロセスでもある。

連帯 Solidarity

複合化・複雑化する地球規模の脅威を一国で解決することはできず、多様な主体が共通の目標のため協働することが不可欠である。保護とエンパワメントに「連帯」を加えることで、問題を個別に解決するのではなく、連鎖する脅威に対して統合的に対処する戦略となる。連帯を通じて国際社会の協調を促し、信頼に基づいた協力体制を構築することが求められる。

JICA 緒方貞子平和開発研究所

平和と開発のための実践的知識の共創をビジョンに掲げ、開発途上国が直面する課題について政策指向の研究を行い、世界の平和と開発への知的貢献を目指している。

3つの基本方針

- 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する
- 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする
- 人間の安全保障の実現に貢献する



JICA 緒方研究所レポート 『今日の人間の安全保障』

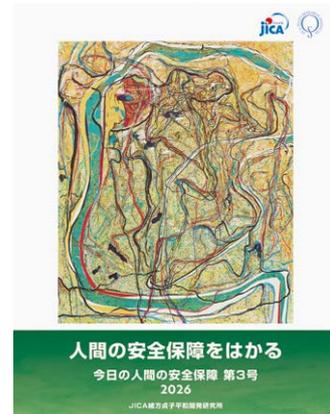
創刊号 (2022)
人間の安全保障を再考する



第2号 (2024)
複合危機下の政治社会と
人間の安全保障



第3号 (2026)
人間の安全保障をはかる



独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 緒方貞子平和開発研究所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

[Web] https://www.jica.go.jp/jica_ri/index.html

[Mail Magazine] https://www.jica.go.jp/jica_ri/news/mailmagazine/index.html

[Linkedin] <https://www.linkedin.com/showcase/jica-ogata-research-institute/>

[Facebook] <https://www.facebook.com/JICARIJ>

[Youtube] <https://www.youtube.com/@jicaogataresearchinstitute>